

回	テーマ	著者	書籍名	出版社	年
第1回	経済と社会の関係	ダニエル・コーエン	『経済成長という呪い』	東洋経済新報社	2017
第1回	経済と社会の関係	ヴィカス・スワラップ	『ぼくと1ルピーの神様』	ランダムハウス講談社	2006=2009
第2回	資本主義と社会主義	クーリエ・ジャポン編	『新しい世界』	講談社現代新書	2021
第2回	資本主義と社会主義	インフォビジュアル研究所	『図解でわかる14歳から考える資本主義』	太田出版	2020
第2回	資本主義と社会主義	ジョセフ・ヒース	『資本主義が嫌いな人のための経済学』	NTT出版	2012
第3回	民主主義と市場経済	国分浩一郎・山崎亮	『僕らの社会主義』	ちくま新書	2017
第3回	民主主義と市場経済	ロバート・ライシュ	『最後の資本主義』	東洋経済新報社	2016
第3回	民主主義と市場経済	クリストファー・ラッシュ	『エリートの反逆』	新曜社	1997
第4回	近代都市と経済発展	サラ・ヴァン・ゲルダー	『99%の反乱:ウォール街占拠運動のとらえ方』	バジリコ	2012
第4回	近代都市と経済発展	マイク・デイヴィス	『スラムの惑星』	明石書店	2010
第5回	新自由主義と消費	横山源之助	『日本の下層社会』	岩波文庫	1985
第5回	新自由主義と消費	ベンジャミン・バーバー	『消費が社会を滅ぼす』	吉田書店	2015
第6回	グローバル資本主義の行方	ボヴェ/デュフル	『地球は売り物じゃない!—ジャンクフードと闘う農民たち』	紀伊国屋書店	2001
第6回	グローバル資本主義の行方	デヴィッド・ヘルド	『論争グローバリゼーション』	岩波書店	2007
第7回	資本主義と教育	サスキア・サッセン	『グローバル資本主義と〈放逐〉の論理』	明石書店	2017
第7回	資本主義と教育	イヴァン・イリイチ	『脱学校の社会』	東京創元社	1977
第8回	資本主義と労働市場	猪木武徳	『増補・学校と工場-20世紀日本の人的資源』	ちくま学芸文庫	2016
第8回	資本主義と労働市場	デイビッド・グレーバー	『ブルシット・ジョブ くそどうでもいい仕事の理論』	岩波書店	2020
第8回	資本主義と労働市場	小熊英二	『日本社会のしくみ 雇用・教育・福祉の歴史社会学』	講談社現代新書	2019
第9回	食卓と資本主義	厚生労働省	『エンプロイアビリティの判断基準等に関する調査研究報告書について』	厚労省ホームページ (mhlw.go.jp)	2001
第9回	食卓と資本主義	リンベリー/オークショット	『ファーマゲドン』	日経BP	2015
第10回	気候変動と資本主義	マイケル・モス	『フード・トラップ』	日経BP	2014
第10回	気候変動と資本主義	ナオミ・クライン	『地球が燃えている』	大月書店	2020
第11回	脱成長は可能か	大河内直彦	『チェンジング・ブルー気候変動の謎に迫る』	岩波現代文庫	2015
第11回	脱成長は可能か	セルジュ・ラトゥーシュ	『脱成長』	文庫クセジュ白水社	2020
第11回	脱成長は可能か	斎藤幸平	『人新世の資本論』	集英社新書	2020
第11回	脱成長は可能か	水野和夫	『資本主義の終焉と歴史の危機』	集英社新書	2014